

## 会議録：「令和3年度第1回恵那市産業振興会議」

日時：令和3年11月18日（木曜日） 16:00～17:15

場所：恵那市役所第2委員会室

参加者：出席10人、欠席1人（別紙参照）

### 1. 開会

○事務局「令和3年度第1回恵那市産業振興会議を開会する」

### 2. 委員委嘱

委員に対し委嘱書を交付。

任期は令和3年11月18日から令和5年3月31日まで

### 3. 会長・副会長選出

○事務局「これまでの本会議の経過を考慮し、引き続き、会長に中部大学・森岡先生に、副会長に恵那商工会議所・山本会頭にお努めいただけないかと考えていますが、いかがでしょうか。（異議なし）異議なしのことであるため、事務局の提案通りとさせていただきます。」

### 4. あいさつ

○森岡会長「会長にご指名いただいた。全力を尽くしたいと考えています。

現代はVUCA（Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・

Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性））の時代と言われている。

そのため環境が複雑に変わってきているため、これまでのような計画を立てることは難しい状況になってきています。前回ビジョンでは農業、林業を含めた産業全体を網羅した計画となっていたが、今回からは商業・工業・観光に特化した計画に見直すということで発展的な構成改変と理解しています。議論の対象が絞られたので、今まで以上に深く審議、議論して頂きたい。より良い計画ができるように各委員のご協力をお願いします。」

○山本副会長あいさつ「昨年度に引き続き副会長を務めさせていただきます。

本ビジョンは「稼ぐ力の強い、持続する地域産業の形成」ということで令和7年をターゲットにした計画となる。その中で様々な社会的な変動により見直しを実施するためこの会議が開かれました。会長をはじめ各委員の力を発揮していただき、目的を達成したいと考えています。」

○小坂市長「ご多用にも関わらずお集まりいただき感謝します。恵那市の未来に向けた存続を考えると一番大事なものは産業が元気であること、持続して発展していくことであると思います。そうすることで恵那市の発展に繋がると考えている。そのような観点より産業振興会議は私にとっても一番重要な会議と考えています。会長や副会長には引き続きよろしく申し上げます。

まずはコロナウィルス感染症に関して、当市の感染者が急激に増加したことから 11 月 3 日に恵那市独自の非常事態宣言を発出しました。最近では感染者が 0 人という日が続いています。このような状況を踏まえ岐阜県の専門家会議で宣言解除に向け検討されましたが、2 週間は解除が出来ないという結論でした。皆様方にはご不便をお掛けしていますが、このままの状況が続けば 24 日に解除できるように進めています。市独自の宣言となるが岐阜県や様々な専門家等のアドバイスや助言によりコロナ対策が行われていることについてご理解頂きたい。

コロナの影響により私たちの日常の中の価値観が変化したと考えています。まずはネットを使った買い物が今まで以上に増えたこと。また地元で作られているものを買うという意識も浸透してきたとも感じています。世界的な潮流では SDGs についても、大量消費から資源を大切に考える考えに変わり価値観の変化がみられます。第 1 期ビジョンからこのような視点がなかった訳ではないが時代が求めるウェイトが変わってきたように感じます。第 2 次ビジョンでは今の時代に合った尺度で恵那市として強みをどう活かしていくのか、委員の皆さんの活発な意見を申し上げます。」

## 5. 議事

○事務局「ここからの進行は、当会議の会長、森岡様に申し上げます。」

○会長「議事に移ります。恵那市産業振興ビジョンの再構築について事務局からの説明をお願いします。」

○事務局

・別紙資料「**恵那市産業振興ビジョンの再構築について**」を説明。

## 6. 意見交換

○会長「ただいま事務局から恵那市産業振興ビジョンの見直しの必要性、検討経過、新ビジョン素案について説明がありました。全体として最適な内容となっているか議論をお願いします。まずは説明の内容について質問をお願いします。」

- 委員「滞在人口率の説明がありましたが、国勢調査の人口とその時間帯に滞在している人の率ということでありますが、この数字が重要だという理由が分からない。出る人が少なく来る人も少ない状況でも率は高くなります。その時間に恵那峡SAに立ち寄って通り過ぎる人もカウントされていることになります。そのためあまり重要な数字ではないと感じるが。」
- 事務局「委員のご発言の通り滞在人口率の考え方として人が動かない地域でも率は高くなります。当市は観光客も年間 360 万人が訪れて頂いているため人の動きはあると考えています。担当としては意味のある数字と捉えています。」
- 会長「資料で示されて滞在人口率の数値が一定期間内のストックの数値になっています。そのためフローの概念の部分を委員は質問をされていると考えます。ストックの数値そのものに意味のないものとは考えませんが、フローの部分の資料があれば委員の疑問は解決すると思います。フローの資料があればより意味が明確になるため、次回に追加で説明いただければと思います。」
- 委員「カーボンニュートラルの実現に向けて電力の地産地消を進めるとありますが、当地域は福沢桃介により水力発電が発達してきた地域になります。上矢作町では昔薪や炭を売る生活が中心で町おこしのため架線を引き明知鉄道を走らせていました。そのような中、上矢作町では福沢桃介の流れの中で町内にある上村川の支流全てに発電所を作り町おこしを行っていたと聞きました。また、豊田市や西尾市、安城市には明治用水が走っておりそれにより産業革命が始まったとも言われています。当時の上矢作は町に活気があったが今は過疎で苦しんでいます。水力発電を活用したグリーン電力を恵那市の売りにすることは良いことだと考えます。リニアでは多くの電力を使いますがクリーンなエネルギーをどう確保するかも問題だと思えます。このような視点もビジョンの中に入れた方が良いと考えます。」
- 会長「表面的にSDGsに合致していると思ってもそれを実行した時、または一つ前の生産工程に戻った時に実は莫大な水や石炭を使用することもあります。その点では水力発電は価値があります。過程で環境負荷を与えるものではないという事を宣伝・PRすることが大切だと思います。」

- 委員「ライフサイクルアセスメントという言葉があります。製品の生産工程から消費されるまでの環境負荷を評価する手法であり、スポットではなく、その過程の中で判断しないとSDGsの達成状況は評価できません。」
- 会長「出口だけではなくプロセスも重要という事であると思います。そのため恵那市の水力発電をPRする際も入口から出口まで全体をアピールすることが必要と考えます。」
- 委員「森が豊富にあるということはCO<sub>2</sub>を吸収し酸素を多く作っているということになります。それはかなり重要な事でアピールできる事だと思います。森林浴等で人の気持ちがやすらぐというのは数値化して表す事が出来ませんが、CO<sub>2</sub>を吸収することはアピールしやすいと思う」
- 委員「ヒノキやスギの植林が盛んに行われたため、（常緑）針葉樹が多く落葉樹が無くなってしまった。かつてはヒノキやスギではなく落葉樹を材料にした薪や炭があった。それが今求められていると感じます。」
- 会長「これまでは質問中心に発言を頂きましたがここからは新ビジョンについての意見を伺いたいと思います。説明資料の中で今後の重要なポイントが記載してあるのはP17、18になります。体系としては戦略を立て、その下に施策として落とし込んでいるものとなっています。あるべき姿を先に想定してその後に現状を見ていき戦略を策定する手法になります。現状を無視したあるべき姿ではありませんが、あるべき姿を求めていくためには先に想定しておくことは必要になります。新ビジョン案についてもそのような視点から作られていると感じました。委員の皆さんのご意見をお願いします。」
- 会長「新ビジョン案はこれまでの3年間の議論を前提に新しい観点から若い人たちの意見が加わりまとまったものになっていると感じます」
- 委員「まとまった計画となっていると考えます。これをどう実行していくかが課題となってくると思います。観光の視点から意見すると、周遊性の拡大を図るには地域の力が必要となります。観光地として盛り上がっているところは地域が元気なところが多い。そのため地域の力を養うような施策も必要だと感じました。」

○委員「人材確保の面では事業所の魅力の積極的な発信も必要だと思います。厚労省では働き易い職場としての認定制度を設けています。認定を受け、働き易い職場環境を整える企業が増えることで労働力の確保や人口増にもつながると考えます。魅力ある企業としてくため個々の事業所としての努力も必要になってきます。」

○委員「大変よくまとめられていると思いますが 2 点ほど意見をさせていただきます。コロナウィルス感染症の影響による企業の地方移転や首都圏に住む人の地方回帰の動きについて、どう対応していくかの判断が難しいと考えています。一時的なものなのかトレンドとして今後も続いていくものなのかの見極めが重要だと思います。恵那市に赴任した際に市街地と自然がこんなに近接している地域は他にあまりないと感じました。それは間違いなく恵那の強みだと思います。このロケーションとコロナの流れを受けた地方回帰の動きは非常にマッチしていると考えます。ビジョン案にも記載されていますが、その流れをうまく捉えてオフィスの地方移転や移住促進する施策を行っていく必要があると考えます。また移住ではターゲットのニーズを捉え中山間地への誘導ではなく市街地への誘導や、移住者を受け入れるための住宅団地の整備も面白いと思います。リニアの開業を見据えても地方分散や 2 地域居住のテーマに即したものであるため考えても良いと感じています。市街地から阿木川ダムが見られることにびっくりしました。歴史がある町というところも大きな強みだと思います。」

○会長「お話があったように今までの空間的な捉え方は変わってきていて、今後このような形が増えてくる可能性はあります。そのため企業誘致やオフィス誘致も進めていく必要があると感じました。特に当地域は自然と文化と歴史が非常に豊かな場所となるため潜在的な需要はあると思います。恵那市には地域商社があるため文化歴史を発信して観光に結びつけるための仕組みづくりも検討しても良いかもしれません。」

○委員「東京の八王子の感覚でリニアの駅ができると発展していくと思います。歴史もあるしクリーンなエネルギーで町づくりができれば面白いと考えます。」

○委員「P16 の強み・特徴・機会をいかに外に向けてアピールするかの手法が大切だと思います。恵那市に住んでいる人は、ある種でしゃばりのような気持ちで外に地域をアピールしていく気持ちが少ない。委員が発言

されたように「ここにはこんな良い所がある」と聞いて、初めてそうなんだと感じ、気付く人が多い。そのような部分をいかにアピールしていくかという所がこのプロジェクトを成功させる一番のポイントだと感じます。」

○会長「外から来た人の方が地元の良いことをいっぱい知っていることは良く聞きます。また住んでいる人にとっては当たり前の事でも都会の人からみれば非常に珍しく魅力的に感じる所はいっぱいあります。それをいかに拡散するかが重要となります。今まではいかに組織立てて発信するかが重要とされてきましたが、これも必要なことではありますが、これからは個人が発信するUGCをうまく使うことが重要な要素となります。発信できるスポットを作ったり、組織から個人へ情報が入り、個人からSNSを使い価値付けした情報を発信する仕組みを組織レベルではなく個人レベルでやることも検討しても良いと考えます。」

○会長「ありがとうございました。本日、委員の皆さまからいただいた意見をまとめ、事務局で再度ビジョン素案について調整を図っていきたくないと考えています。再調整した産業振興ビジョンについては、12月中旬に開催を予定しています、次回の振興会議で報告を行い、ビジョンを確定する予定ですので、よろしくをお願いします。  
本日は様々な分野や項目に渡ってご意見を頂きありがとうございました。以上で全ての議事が終了しましたので、事務局へお返しします。」

## 7. 閉会

○事務局「貴重なご意見をいただき感謝いたします。次回の産業振興会議は12月中旬を予定しており、本日のご意見を反映したビジョンの報告と令和4年度に実施を予定している事業についても紐付けした形で説明させていただきます。追って日程等のご連絡いたします。  
以上をもって第1回恵那市産業振興会議を終了させていただきます。」